

Lifeのそばで生きていく

Lifeそれは命、Lifeそれは生活、Lifeそれは人生

高知県立大学看護学部は、1952年に高知女子大学家政学部看護学科として我が国で初めて4年制大学で看護学教育をスタートして69年、実践—教育—研究の連環の中で「看護学とは何か」を探究し、将来に拓かれた看護学の構築にチャレンジし続けています。大学院は、1998年に看護学研究科（修士課程）としてスタートし、2014年に看護学専攻博士前期課程・博士後期課程、博士課程をもつ研究科へと発展し、創設期から拡充・発展へと向かっています。

本年報は、看護学部、看護学研究科の教育活動・研究活動・社会連携活動を中心にまとめたものです。看護学部は、高知女子大学の“看護学を探究する教育”“看護実践を大切にせる教育”“学生の個性を伸ばす教育”を大切にし、次代の看護専門職者の教育に力を注いでいます。

2021年度も新型コロナウイルス感染症により、教育、研究、社会連携、国際交流などの活動は影響を受けました。感染予防行動を最大限に行って、コロナ元年に培った知識や技術を駆使してWebを活用した新たな教育方法や工夫を行ない学生と教職員、地域の方々と協働して取り組みました。コロナ前の対面での活動を同じ形態で行うことは難しい面もありましたが、見方や考え方、視点を変えて新たな方法や技術を用いて目的を達成することもできました。ご協力ご支援をいただいたすべての方々に感謝申し上げます。

新カリキュラムを文部科学省に申請し、承認されました。この教育課程を学位プログラムレベルと授業科目レベルで学部として、教員として評価・点検して教育の質の保証に取り組んでいきます。2021年度は演習や学内実習においては、遠隔授業を促進させ遠隔でもシミュレーション教育に参加できる環境を整備し、学生の能動的学習を支援しました。学外での実習は臨地の状況を把握しつつ、柔軟に対応できるように方針を決めて取り組みました。また、遠隔授業における課題を把握し、経済的支援体制を充実させ、学生のニーズを重視した学生生活の支援とキャリア支援に努めました。学生は現状の中で可能性を広げ、大学での学びや立志社中などの課外活動にも積極的に取り組みました。

大学院では、災害看護グローバルリーダー養成課程のインドネシアとネパールの外国人留学生が5年間の課程を修了し、博士（看護学）の学位が授与されました。海外の協定校や修了生との学術的交流はWebを活用して継続し、国際性・学際性の強化に取り組んでいます。また、博士前期課程・後期課程の学位論文の審査基準に基づく学修成果の評価の仕組みづくりや前期課程に全領域を横断する在宅リエゾン看護を強化する科目の設置等に取り組みました。

教育研究活動については、FD活動を活発化し、特に教員の教育力を伸ばすことを目指して努力しました。また、研究環境促進委員会を中心とした活動により、競争的外部資金に応募し資金を獲得し、他大学の教員や実践家、大学院修了生と共同研究に取り組み、その成果の発信や、学内の戦略的研究推進プロジェクト研究に取り組んでいます。

社会連携活動では、高知医療センターとの包括的連携事業や健康長寿センターの活動に積極的に参画し、一般市民を対象とした健康文化の創造を目指す活動や、専門職者を対象とした活動を実施し、専門職者の方々と共に看護の質の向上に努めました。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、いくつかの事業は中止となりましたが、寄付講座をはじめとする高知県と協働した事業、高知県看護協会との連携事業など、専門職者の教育に取り組みました。

令和4年度は、伝統を継承しつつ、次代を見据えてさらに充実・発展してけるよう努力していきたいと考えています。

高知県立大学看護学部
学部長 藤田佐和